

昭和52年度に発生した森林害虫

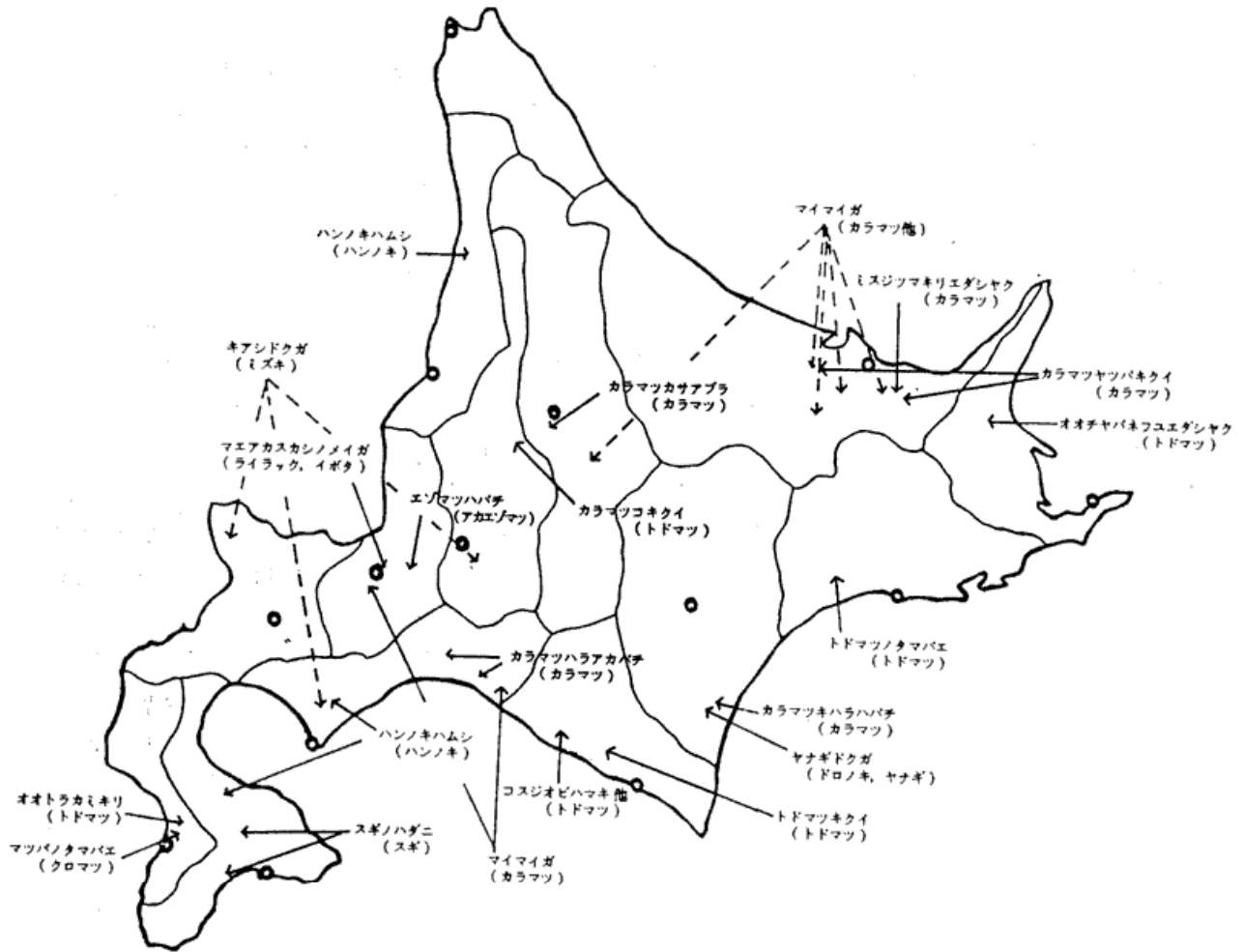
こ 小
い ず み 泉
ち から 力
(1978. 3. 27受理)

1. 昭和52年度の害虫発生状況

表-1 昭和52年度森林害虫発生概要

害虫名	樹種	発生地(面積ha)	備考
スギノハダニ	スギ	函館市(38.4) 大野町(459.0) 知内町(2.6) 七飯町(560.0)	計1,060ha、道南地方一帯のスギ幼齢林に発生
トドマツノハダニ	トドマツ		各地の苗畑
イヌガヤワタカイガラムシ	イチイ	札幌市	庭園樹
ヒメカサアブラ	トドマツ		各地の苗畑、幼齢造林地
カラマツカサアブラ	カラマツ	神楽署 (15.4)	昭和43年植栽木
カサアブラの1種	クロマツ	森町 (28.5)	防除
エゾマツカサアブラ	エゾマツ		報告はないが、各地の幼齢造林地に発生
オオアブラムシ類	トドマツ アカエゾマツ	札幌局(6,260 トドマツ) 函館局(365 トドマツ) 旭川局(24 アカエゾマツ) 旭川局(290 トドマツ) 帯広局(111 アカエゾマツ) 帯広局(1,164 トドマツ) 北見局(43 アカエゾマツ) 北見局(228 トドマツ) 道有林(2,984 トドマツ) 道有林(1,935 アカエゾマツ) 民有林(1,246 トドマツ) 民有林(67 アカエゾマツ) 合計(14,717)	防除面積 札幌局 5,526ha 函館局 199 旭川局 — 帯広局 1,164 北見局 — 道有林 4,919 民有林 1,012 合計 12,820
カラマツオオアブラ	カラマツ	苫小牧林務署 (8)	防除
マツオオアブラ	マツ類		報告なし
トドマツノタマバエ	トドマツ	白糠署 (201)	被害面積は前年より増えている。
スギタマバエ	スギ		道南スギ造林地に散見
マツバノタマバエ	クロマツ	桧山署(46) 厚沢部町	昭和51年、砂坂海岸林に侵入初期とみられる被害が発見され、被害面積も増加している。
クリタマバチ	クリ		道南各地でひき続き発生
シラカバノクロボシ ハムグリハバチ	シラカンバ	札幌市	その他各地で散見
オオアカズヒラタハバチ	ヨーロッパトウヒ		報告なし
エゾマツハバチ	アカエゾマツ	江別市 (1)	北海道林木育種場、採種園
カラマツキハラハバチ	カラマツ	大樹署 (20)	
カラマツハラアカハバチ	カラマツ	苫小牧市(128), 厚真町(1)	千歳市近郊のカラマツ林に大発生、46ha薬剤防除
ハバチの1種(?)	サクラ	札幌市	全葉食害の被害

害虫名	樹種	発生地(面積ha)	備考
マツツマアカシムシ	クロマツ		報告はないが、各地の海岸林で引き続き発生
マツノシンマダラメイガ	クロマツ, 他	桧山署 (1)	樹木展示林
マエアカスカシノメイガ	ライラック, イボタ	札幌市	庭園樹, 街路樹などに発生
マツヒメハマキ	ストロブマツ	苫小牧市	
コスジオビハマキ その他ハマキガ類	トドマツ	新冠署 (9)	
カラマツイトヒキハマキ	カラマツ		報告なし
ツガカレハ			報告なし
マイマイガ	カラマツ, 他	鶴川署 (13.0) 余市署 (0.2) 札幌市 (10.0) 富良野市 (2.7) 美瑛町 (5.4) 和寒町 (10.0) 端野町 (12.0) 津別町 (649.0) 美幌町 (4,179.0) 満別町 (90.0) 女満別町 (200.0) 東清里町 (80.0) 民有林計 (5,238.0)	美瑛町 5.4ha, 端野町 6, 津別町 209, 美幌町 866, 女満別町 78, 清里町 30 薬剤防除 前年に続いて大発生, 面積も拡大している。
ヤナギドクガ	ドロノキ, ヤナギ	大樹署 (20)	天然林
キアシドクガ	ミズキ	室蘭署 (35)	前年につづいて空知, 石狩, 胆振地方の全域で全葉が食害される大発生。
オオチヤバネフユエダシヤク	トドマツ	中標津署 (1.5)	
ミスジツマキリエダシヤク	カラマツ	清里町 (24)	全葉を食害する大発生, 食害時期がおそいため, 枯死木もでる。
ナミスジフユナミシヤク	コバノヤマハンノキ	厚賀署 (8)	3~4種のハマキガ類が混在して発生している模様。
セグロシャチホコ	ドロノキ, ポプラ	札幌市	
キマダラコウモリ	スギ 他		道南地方で散見
コスカシバガ	サクラ		報告はないが, 公園樹などで引き続き発生
ヒメコガネ	トドマツ, 他		苗畑
オオスジコガネ	カラマツ, 他		報告はないが, 幼齢造林地で散見
ハンノキハムシ	コバノヤマハンノキ, ヤマハンノキ	羽幌署(5), 室蘭署, 森町(64.5)	森町64.5ha 薬剤防除
ドロノキハムシ	ドロノキ	札幌市	
カラマツコキクイ	トドマツ	深川署 (12.4)	50~51年植栽木 4,900本枯死
カラマツヤツバキクイ	カラマツ	美幌町 (5.0) 小清水町 (0.3) 清里町 (12.0) 津別町 (1.5)	除, 間伐跡地など, 道東地方で発生
トドマツキクイ	トドマツ	浦河署 (3)	天然林, 300m ³ (300本) 枯死
ヤツバキクイ	エゾマツ		各地天然林
ヤチダモノクロキクイ	ヤチダモ	札幌署	防風林
オオトラカミキリ	トドマツ	厚沢部町 (3)	40年生, 673m ³
ヨツボシヒゲナガカミキリ	エゾマツ, トドマツ	美瑛署	天然林 500m ² 枯死



図一！ 主な森林害虫の発生地（全道的に被害のあったオオアブラムシ類を除く）

2. 主な害虫の発生動向

北海道では、最近森林害虫の多発化の傾向が強まり、特に人工林では各種害虫の大発生、あるいは発生の恒常化が目立つ。昭和52年度は前年と比較して、発生した害虫の種類数は少なくなっているが、スギノハダニ、トドマツノタマバエ、カラマツハラアカバチ、マイマイガ、キアシドクガ、ハンノキハムシなど大発生している種類数はいぜん多い。主要害虫の発生動向を要約してみると、次のとおりである。

幼齢造林地ではトドマツに対するトドマツオオアブラの被害に加えて、アカエゾマツを加害するエゾマツオオアブラの発生が恒常化して、防除面積も増えている。トドマツはこのほか、昭和51年春の乾燥害が誘因となって50年秋、51年春に新植された造林木にカラマツコキクイが寄生し、51年に70,000本以上の枯死木が発生しているが、52年に

も被害が続く、約5,000本の枯死木が生じた。

スギノハダニが道南のスギ造林地に発生、全葉が赤変した激害地だけでも100haをこえている。道内で本種が大面積に発生した記録はこれまでにないようである。

成林した造林地では各種食葉性害虫の大発生が目立っている。このうちツガカレハは、昭和48年ころから道央、道東にかけて生息密度の増加が観察され、51年には北見地方の津別で大発生し、52年にはなお周辺地域で発生することも予想されたが、大害もなく終熄したようである。一方マイマイガは、昭和47年富良野、美瑛地方のカラマツ林に局部的な大発生をみて以来、次第に発生地域が拡大され、51年に大発生した北見から斜里を結ぶ地域一帯ではさらに発生面積が増大した。そのほか札幌、日高地方などでも発生の拡大が認められている。キアシドクガは前年に続いて空知、石狩、胆振地方の全域でミズキの全葉を食害する大発生

がみられている。

ミスジツマキリエダシャクは本州ではスギの害虫として知られていたが、昭和50年ころより清里のカラマツ林に発生、幼虫の食害時期がおそいことから、全葉が食害されるとカラマツでも枯死することがわかった。この虫は道内各地に普通に分布しているようであるが、これまで本道では被害の全くみられていなかった種である（鈴木、篠原：北方林業 30(369~71, 1978)。

エゾマツハバチは昭和45年に池田のアカエゾマツ造林地で発見されて以来、阿寒、浦幌など道東地方でしばしば発生していたが、52年には北海道林木育種場（江別）の採種園にも発生した。カラマツキハラハバチは昭和47年に広尾地方で発生、50年に発生面積2,500haにも達したが、これをピークとして51年に60ha、52年20haと減少の傾向を示している。

またカラマツハラアカハバチが苫小牧、千才、厚真などに大発生、9月上旬でも幼虫態のものが多く、食害期間がおそくまで続いていることから枯死木の発生する心配もある。

このほか道央、道南各地では前年に続いてハンノキ類がナミスジフユナミシャク、ハマキガ類、

ハンノキハムシの大発生で、いずれも全林丸坊主の被害をうけている。

虫えいをつくる害虫では、トドマツノタマバエが白糠で被害面積の増加が認められている。

マツバノタマバエの被害は近年、本州の日本海側を中心に北上する傾向がみられ、北海道では昭和46年に道南の七飯で被害が発見された。また51年には江差の砂坂海岸林で被害が認められたが、52年には被害面積も拡大し、今後の推移が注目される。マツバノタマバエは春、針葉が1cmくらい伸びたとき、孵化した幼虫が何頭か集合して針葉の基部にもぐり、虫えいをつくる。10月下旬まで幼虫はの中で栄養をとり老熟する。このためタマバエの寄生した針葉は健全葉と比較して短かい。また被害葉は12~2月にかけて赤変し落葉する。

穿孔性の害虫では、道東の美幌、清里などでカラマツの除間伐にともなうカラマツヤツバキクイの被害が発生している。浦河ではトドマツ天然木がトドマツキクイの寄生によって枯死、厚沢部ではトドマツ造林木（約40年生）がオオトラカミキリの被害をうけていることが発見された。

（林試北支場）